

「事業番号2-② 古紙集団回収事業の充実」に関する 活動指標について

「雑がみの集団回収量」を活動指標に設定しましたが、現在のところ、下記の理由により数値の把握が困難な状況です。

については、新たに古紙集団回収事業に関する活動指標を設定したいと考えています。

1. 「雑がみの集団回収量」の把握が困難な理由等

- 集団回収補助金の実績報告において、雑がみは「雑誌」に含めており、各家庭での仕分けや回収業者による計量も混合して行われています。
- 現在、多くの古紙回収団体及び古紙買取業者が関わっており、直ちにすべての関係者へ分類の変更を徹底することが難しい。
(回収団体 約160団体、買取業者 約20社)
- 中国の古紙輸入規制を控え、雑がみの買取相場が不透明なことから、新たな分類・計量コストをかけにくい。(逆有償の可能性がある。)
- 民間の古紙回収ステーション(現状: 6箇所程度)が増加している。

2. 新たな活動指標の検討

下記の項目を新たな指標とし、継続して把握します。

指標: 可燃ごみ排出原単位に含まれる雑がみの重量

【計測方法】

各年度の組成調査による。

【具体的な数値】

平成27年度 41.2g/人・日

令和元年度 32.9g/人・日

令和7年度 8.2g/人・日 (平成27年度から8割減)

※組成調査項目「(42)+(43)+(48)+(50)」